

国立白門会ニュース

第24号

国立市富士見台1-1-201

村田 亘 75-2020

印刷

真美巧芸 37-2536

井上・風間・青木の三市議 市政の抱負を語る！



中央大学学員会国立支部
相談役 井上 正博
(昭和34年卒)

新年あけましておめでとう
ございます。昨年の選挙に於て皆
様方の御指導御鞭撻により三期目
の当選を果たすことができました事
に対して深く感謝申し上げます。

『市民ニーズに思う』

扱私は「文化の町国立の建設」
と「さわやかな心のふれあい」を
基本理念として政治活動を続けて
参りました。そこで国立の現状を
見るとき多くの行政課題が山積さ
れております。今日迄多数の問題
を解決してきましたが、まだ未解
決の問題を多く抱えております。
例えば、教育関係におきましては
学校教育の施設の整備・生涯教育
におきましては、公民館・図書館

教育コミュニティー等の充実を市
民との合意の中で早急に進めてい
く必要があり、福祉問題について
は、高齢化社会における多くの課
題が提起されております。

例えば、特別養護老人施設の不
足は既に数多い家庭が直面してい
る大きな課題ですので早急に解決
する必要があります。そして障害
者の問題におきましても具体的な
施策を推進する必要があると思
います。次に市民の日常生活の中
でゴミの問題は行政と議会と市民が
一体となって積極的に解決して行
く必要があります。また国立駅周
辺の交通問題は多くの市民が早期



中央大学学員会国立支部
常任理事
事業部長 風間 健
(昭和35年卒)

『新年を迎えて議員の役割』

解決を望む最大の課題です。そし
て地域産業と消費生活の安定向上
を図る必要が大切であると思いま
す。以上の事を推進し解決し実行
していくには行財政運営の効率の
よい施策とさわやかな市民の心の
協力が必要だと思えます。

新年あけましておめでとうござい
ます。会員の皆様、ご家族の皆様
方のご多幸を心からお祈り申し上
げます。
紙面の関係で詳しく書けないの
が非常に残念であります。第一
は地域活動に積極的に参加し要望
を肌で感じ第二は市民の立場に立
って行政の良し悪しを判断し指摘
する。

昨年統一地方選挙に於て
市議会議員として初当選させてい
ただいて、初めての新年を迎えま
した。心を新たにその責任の
重大さに厳肅な気持ちで元旦の朝
を迎えました。
第三は市民の方々が今一番熱望し
ているものは何かを的確に把握し
て政策を立案し実現していくこと
であります。

私は議員の仕事、任務は、大別
して三つあると考えております。
第一は、市民の方々の要望をど
の様に行政に反映するか。
第二に、行政をどの様にチェッ
クするか。
議員を効率よく使いこなすのは
市民の方々の声であります。皆様
方の声をお聞かせ下さい。ご指導
をお願い申し上げます。

第三に、自分の政策をどの様に
立案し実現させるか。
以上三つを考えております。
お願ひ申し上げます。



中央大学学員会国立支部
理事 青木 健
(昭和57年卒)

『輝かしい明日のために』

新年明けましておめでとうござい
ます。昨年、私も新人として
初めての選挙戦をあの様に立派な
成績で当選をさせて頂くことが出
来ましたのも、偏に諸先輩方の日
頃のご指導・ご鞭撻の賜物である
と、あらためて深く感謝申し上げ
る次第であります。

私も新人議員として四月の初登
庁以来、5月の臨時議会6・9・
12月の定例議会、そして11月の
決算特別委員会を経験させて頂き
深く心に感ずる点がございました
のでお話ししたいと思います。

今世界は東西の冷戦の終結以来、
ソ連を始めとする東側絶対主義陣
営の崩壊と大変な早さで民主化、
自由化が進展しています。世界が
新しい国際秩序を求めている中で、
我日本国も自由主義陣営をリード
する国の一つとして大きな役割を
担わなければならないわけですが
しかしながら国内、特に私達の国
立の街の中には、今だに国旗も国
歌も認めない人達が少数ながら
いるということは大変なげかわし
いことだと思えます。特に学校等
の入学、卒業式には力づくで妨害
活動をするなどは、正に言語道断
であると思えます。次代を担う子
供達が正しく自由の文化、伝統、
風習を理解し、自国を愛してこそ
始めて他の国々の人達の為にも、
広く世界の為に役に立つ人材が育
成出来ると思えます。ですから私
は、文教委員として私達のこの国
立の街で、正しい学校教育が展開
され、そして一人でも多くの立派
な人材が輩出されることこそが、
私達国立の街の輝かしい明日につ
ながる道だと思えます。私もまだ
まだ若輩者ではありますが、諸先
輩方のご指導を賜りながら当市の
発展の為、精進努力をして参るこ
とをお誓い申し上げます。年頭のご挨拶
とさせて頂きます。

南欧旅行(II)



発掘された2000年前のポンペイ

中央大学学員会国立支部
副支部長 山崎 武

(前号のあらずし)

平成二年十一月二十五日、北極廻りで、南欧の旅に出発した。フィンランド・トルコを経由して、ギリシャへ向かった。

ギリシャでは、遊覧船で鏡のようなエーゲ海クルーズを楽しみ、エギナ島では、露店をひやかし、イドラ島の白亜の洋館は、絵画を鑑賞しているような錯覚さえする美しさだった。旅行三日目に待望のバルテノン神殿の見学が出来た。

バルテノン神殿

神殿のある丘は、全域が大理石で覆われ、所々に僅かな雑木が茂る。曲りくねった歩道は、不規則に切られた、大理石の平板が、無造作に並べてある。その道を登ると右手に、小屋のような受付があったが、誰も居ないから、足を止めずに登り続けると、整備された薄ピンク色の大理石の石段を二十段ぐらいで登り詰

め、アテナ神を祀ったであろうバルテノン神殿の庭に出た。佇立するとギリシャ市街を一望、その先に島々を浮べたエーゲ海が、美しい姿を見せてくれた。

神殿は、目測で厚味三十糎ぐらいの広い大理石の平板が5段重ねに敷き詰められ、その奥が本殿になっている。

本殿の柱は、直径八十糎ぐらい高さ一米の大理石十段を積み上げ、最上部は、十糎太いという。遠くから見た人間の錯覚を訂正するためだと、添乗員の説明。この柱が、5米間隔で東西に十六本、南北に八本立っている。屋根が殆んど崩れ落ち、柱もかなり傷んでいた。西面に巡れば、足場を組んで修理中だ。内部は、少しばかりの間仕切りと、柱が立っているだけである。

立派な神殿であつて答だが、今では、遺跡という他はない。戦争のため、ペルシャから四回攻撃占領されたが、後に、アテナの将軍で政治家でもあるペリクレスにより再建された。

時代を降って、国王は、国教を廃止し、信仰の総本山も衰退をたどるとき、キリスト教寺院に変わるが、十字軍の攻撃を受けたり、その後のトルコ軍の数回に及ぶ攻撃のとき、大砲弾が屋根を貫き占領されたり、落雷が火薬庫に引火爆発に見舞われる災害歴史に積み重ねとなったのだろうか。

車に戻るとき、左手大理石による、自然塚の一面が垂直に切落され、幅一米、高さ五十糎ぐらいの

窓が見えた。窓には、鉄格子が取り付けられ、内部は暗くて見えな

い。これが、西洋哲学の祖、ソクラテスが幽閉された洞窟だ。時の政治家に不都合な人生観を説いたかも知れないが、哲学者をどんな所へ押し込めても、その生命を奪つても、その思想が、立ち消えにならないものもあるまい。かの有名な

カントがソクラテスの思想を發展させ、その弟子のヘーゲルが、「一粒の麦」の發展過程を説いたではないか。そして、ヘーゲルの弟子達が、右翼思想や、中道思想、左翼思想に發展させ、現在に至っているのではないか。

バスに乗ると、バスは、アテネ空港に向かつて発車した。ローマへの道

世界の道は、ローマへ通じる。そのローマへ向かう為、アテネ空港でOA二三五型機に搭乗した。飛行機は、一〇〇人乗りぐらいの小型機であつたが、午後零時二十分離陸、西北に向かつてギリシャの西海岸線線から、伊太利の東海岸沿いに、快晴の飛行を続け、約一時間で、ローマ空港へ着陸しローマ市の郊外にあるピラパンプイリホテルへバスで到着した。

幻の町 ポンペイ

ローマに一泊し翌朝(平成二年十一月二十八日)からポンペイの町見学ということになった。

午前七時三十分に出発したバスは、三時間程フルスピードで走りポンペイの町に着いた。この町は、ローマと同じくらい古い起源をも

っている。紀元前八世紀ごろ、先住民がイタリヤ半島を南から北へと、海の豊富な産物を運搬する中継点として栄えた町だが、都市国家時代にローマの植民地となった。

恐るべき変動は、西暦六十二年大地震と共に、一瞬にして、ヴェスヴィオ火山(筑波山ぐらい)が出現し、その瓦礫が町を埋め尽くした。

数少ない生き残った市民は、生命をかけて、町の再建に十七年間も努力を続け、山は死火山と信じ込まれていたが、西暦七十九年八月二十四日正午ごろ、またもや突然大爆発を起した。ミセノの住人が、このニュースで舟ではせ付け友人を救出し、励ましてから「巨大なキノコ雲が、黒く広がりが太陽は暗く覆い隠され、白熱した火山礫が町に降り注ぎ、屋根は落ち、壁は崩れ、逃げまどう人々に、水分を含んだ火山灰が降り、地獄絵図を見るようであつたが、更に、雪が降り、津波が襲った。」と書き残したものがあるといふ。

今から、二千年も前の町だが、千八百六十年から慎重に発掘され、生物体の腐食部分には石膏を流し込んで、原形のまま発掘し保存を続けているという。

通路は、整然と区画整理され、煉瓦敷となっていて、交差点には信号機と思われる石造りのものがある。路面の石は、輪だちの跡が残っているから、車両が通い、歩行者も多かったらう。

神社の境内は、矩形で奥に向かつて長く、神殿の部分は、境内よ

りも十三段の石壇が積み上げられ高くなつていて、石塚が囲んでいる。

区分によつて祭礼を行う区域、選挙をする場所、裁判所、マーケット、居酒屋、喫茶店のようなものが立ち並び、建物の屋根から、雨水を貯める水槽や、上・下水道が設けられている。

当時、ここに住んでいた人口は、二万人と推定され、貴族、商人、自由人、奴隷等である。こうして、二千年前の西洋文化の發展状況を目の当りに見聞し、日本の縄文時代と比較して、その大差は驚愕の限りである。

この後、ローマ市内を見学、そしてスイス国インターラーケンから、アルプス山頂のアイガー峰を見物、更に、パリのヴェルサイユ宮殿、ルーブル博物館を巡つて無事、日本に帰国した。

とき 平成二年十二月四日。

(おわり)

中央大学学員会国立支部
会費納入のお願い
 会費は、白門会ニ度分紙の郵の
 年費で、白門会ニ度分紙の郵の
 財源局備お払い込み下さい
 口座番号 東京4 83303
 加入者名 国立白門会
 にお、備考欄に①連絡先電話番号②卒業年を
 必ずご記入下さい



キャンパスだより

中央大学「白門祭」

中央大学学園祭「白門祭」は、十一月一日から四日まで予定で行われていたが、三日の午後、多摩校舎で白門祭に来ていた拓殖大学一年生の高畑さんが、コーラの一気飲みコンテストに参加した直後倒れ、救急車で病院に運ばれたが、急性心不全で死去。大学では、「学園祭の最中に亡くなられた人を悼むべき」と判断して、多摩校舎の白門祭を、三日午後以降、中止した。

第二回中央大学 ホームカミングデー

家族連れで賑う

第二回「中央大学ホームカミングデー」が、十一月十日(日)に多摩校舎で行われた。まず、クレセントホールでセレモニーが行われ、総長、理事長、学員会会長の挨拶。親子三代学員の表彰が行われた。続くパネルディスカッションは、「21世紀に向けて、母校はどうあるべきか」をテーマに中大の将来像が討論された。このホームカミングデーは、昨年からの一回行われ卒業生同士の交流と親睦、恩賜や卒業生の再会の場として大いに活用すべき有意義な日となっている。

CHUO SPORTS

◎隅田川レガッタで中大優勝
8月4日、第11回ウオーターフェア隅田川レガッタが、桜橋上流の吾妻橋間(距離千二百m)で行われ、予選で中大は、学習院大、慶応大Bを破り決勝に進出、決勝では、東京商船大、慶応大A、早大を破って、三十分二十九秒九四の記録で見事優勝した。

▽準硬式野球部
◎全日本大学選手権大会
(8月9日・高知春野球場)
準決勝 中大5-10愛知学院
決勝 中大3-12大
優勝 (2年連続・4度目)
▽弓道部(男子)
◎全日本学生選手権大会
(8月3日・於神戸市)
個人優勝 宮本晃宏(4商)

バザーで盛り上った……

白門会の「市民まつり」

台風の長雨でうとうとしかった今年の十月…。お天気が心配されていた十一月三日の市民祭でしたが、当日はさわやかな秋空が広がり、絶好のお祭り日和になりました。我々が国立白門会も、例年通り「無料、法律、税務相談」朝早くから、堀田幹事長、山崎副会長、福谷相談役、小林新倉両副幹事長がテント設置をして、バザーの品物が並べられた頃から人通りも多くなってきました。「法律・税務相談」は、当会会員の村上弁護士、溝口弁護士、穴戸税理士、高橋税理士の各先生が担



当し、相談者の話に熱心に耳を傾けて下さいました。毎年、白門会のバザーはよい品があると評判になっていくのですが、今年は昨年の分(昨年は市民祭が雨で中止になった)もあってさらに品数も多く、自信満々に売り切りました。出店当初から堀田幹事長のお嬢様恵美子さんがお手つくだい下さり、さわやかな雰囲気、品物の品格も上がったのではないのでしょうか。午後からは、昨年八王子に引越された風間前幹事長がご子息と共に駆けつけられ、売り声にも一層力が入ったようでした。カラオケセット、木の化石の置物、歴史書全十九巻などの大物が売れたときには声を震らして売り込んだ甲斐があった(？)と思いき満足しました。村田会長も会員の活発な様子に目を細めていらつしやいました。

お天気に恵まれ、人も多く、大盛況の市民祭でしたが午後三時過ぎると、11月の夕暮れの肌寒さを感じてきます。お祭りの後のものさびしさにはちよっとひたりながら「白門会」のテントが手ぎわよく片づけられるのを見ていました。

国立白門会ゴルフコンペ

山口さんが優勝

十一月二十一日(木)国立白門会のゴルフコンペが、今年五月オープンしたばかりの群馬県21センチチュリクラブ富岡コースで、好天に恵まれた中で行われた。

OB・池ボチャ・スリーパットは罰金と云うルールを採り入れたプレッシャーにもめげず、山口康雄さんが見事優勝した。成績は、次の通り。

- 優勝 山口 康雄
- 準優勝 風間 健
- 三位 高橋 雅幸
- 四位 二宮 巍
- B・B 青木 健
- B・M 小島 泰義



久保田 利雄氏(中央大学学員会国立支部理事兼事業部)平成三年四月二十一日肝臓癌のため、立川相互病院で死去63歳。墓地は、多磨霊園15区1種11側、賢善院釋利恵

尚、ご実弟 久保田秀雄氏より年末年始のご挨拶は、ご遠慮させていただく旨、伝言がありました。

秀雄氏のご住所、電話は、目黒区目黒1-22-10アウスマールン目黒三〇三号
☎03(三七七九)二五五八

「納涼会」転じて

谷前市長慰労会と 井上・風間・青木三市議激励会

国立白門会恒例の納涼会は、谷清前国立市長の慰労会と、四月執行の統一地方選挙で国立市議に、井上正博氏(現)、風間健氏(新)、青木健氏(新)の三名が見事当選され、三市議激励会が、七月十三日(土)谷保駅前「すえひろ亭」で開催された。

午後五時、通称風間Aこと風間俊範氏の司会で、村田会長の挨拶から始められた。「国立市の財政が破綻を来した時期に、市民の期待を一身に集められて市長に立候補され、市長になられるや三期十二年で財政再建をされ、他の市町村からの羨望の的となったことは、誠に喜ばしいことであるが、ここで辞めるのは、本当に残念である。また、三名の市議を白門会から選出できたことは、白門会のもとま

りがあったからこそで、次回には、もう一人位当選させることが出来るのでは」とと威勢のいいスピーチをされた。続いて、酒井顧問の乾杯の音頭で歓談。暫くして、谷前市長は、「昭和五十四年に突飛に出馬して、辞めるのも突飛。三期十二年を市長として尽くしました。」と謝辞を述べられ、続いて、井上市議

— 春の旅行会 —

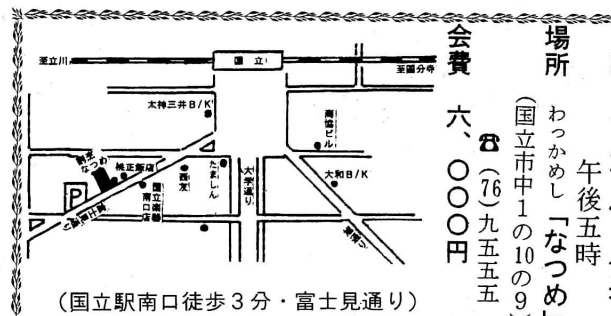
湯教鹿から
松本城へ
信州



国立白門会の年中行事「春の旅行会」が遅ればせながら二十一名の参加者を得て、六月八日(土)に行われた。午前七時三十分、国立の橋大学前をマイクロバスでスタート。国立・府中ICから中央高速道で、途中休憩をとりながら凡そ三時間半で松本ICを出る。松本市街を抜け



上田・佐久方面二五四号線、三才山有料道路へとコースをとる。江戸時代には、松本から江戸へは、この道の三才山峠越えが最も利用されたそうである。今は、三才山トンネル(二、五一一m)が完成して車で峠を通過してしまいうほど便利となった。つづいて、孫六トンネルがあり、そこを通り抜けると、左手に内村ダムが水を貯えて出迎えてくれた。鹿教湯は、もうすぐだ。我々は、鹿教湯温泉街から少し離れた「かんぼ保養センター」鹿教湯で昼食をとる。この鹿教湯という地名は、文殊菩薩が鹿に化身して信心深い猟師に、温泉(湯)のありかを教えたことにより、この名がついたと言われる。



松本城へは、来た道をとって返し一時間程の行程である。松本市の中心にそびえる天守閣は、鳥城と言われるだけあって、黒塗りの堂々たる建築物で、内堀の水面にその姿を映していた。

鎌倉時代の末期、甲斐の小笠原氏が深志城を築いたのが始まりと言われ、戦国時代末期に松本城と改め、一五九四年に石川数正が現存する天守閣を造営した。午後三時半、帰途につく。

第14回 定時総会

国立支部の第十四回定時総会が、平成三年五月十九日(土)午後三時から、国立商協ビル二階会議室で、風間事業部長の司会で開かれた。

まず、井上副支部長の開会の辞が始まったが、続く村田支部長(会長)の挨拶は、支部長の体調が優れないため、会場に臨席されておられたものの、井上副支部長が会長代理で総会開催の挨拶をされた。大学からは、野崎唯雄常任理事が、母校への支援に謝辞を述べられ、大学、大学院の改革について説明された。続いて、学員会副会長の市橋千鶴子顧問が、国立支部が他の支部の範となっていることとは、誠に喜ばしいことである。

り、また、学員会としても、学員情報活動プロジェクト発足で三十八万名の学員の活動が判るようになったと挨拶された。

ご来賓の方々には、二沢周治日野支部長、三鷹支部の岡崎幹事長、立川支部の板谷事務局長から、それぞれお言葉を頂戴し、総会は、閉会した。

新年会のご案内
左記により新年会を例年通り行いますので、万障お繰り合わせの上、ご参加下さいませよう。案内申し上げます。

日時 一月十八日(土) 午後五時
場所 わつかめし「なつめ」(国立市中1の10の9) 電話(76)九五五五
会費 六、〇〇〇円